

活動報告 2026 年 4 月～2026 年 6 月



2026 年度定時総会が終了しました。

4 月 29 日 小田原市民交流センター UMECO にて開催されました。出席会員 12 名、委任状提出 30 名、議案書をお届けしたのは 73 名でした。従って 31 名の方からはご連絡がなかったこととなります。これはとても残念なことです。提出された 5 つの議案は、すべて賛成多数で採択されたことをご報告いたします。同時に、改めて「自然共生サイト」として「おだわら めだかの郷」が環境省よりの認定を受けたことの報告と皆さまへの感謝、今後に向けての取組の重要性について等の説明が山田会長からありました。また、リニューアル作業進行中のホームページについて、仮の画面紹介をモニターで披露しました。正式公開については、現在、ホームページの安全性や検索されたときに優先されるようなドメイン契約を模索しており、近日中の公開を目指しています。いましばらくお待ちください。

ネイチャーポジティブ宣言自治体として小田原市が認証されました。



ネイチャーポジティブとは、生物多様性の損失を食い止め自然を回復軌道にのせる考え方ですが、これは環境省の推進する「自然共生サイト」と同じ理念です。こちらは、公益財団法人 日本自然保護協会による認定制度です。自治体として、首長が宣言することやどんな取り組みが企業や市民団体等で行われ、効果をあげているかなどの審査基準がいくつかありますが、このほど小田原市が認証に至りました。6 月 26 日にその認証書授与式が市役所で行われました。「森里川海」を掲げてきた小田原市とし

ては、生物多様性の豊かさの継続、復元を目指すことに取り組むことになるわけですがそのシンボルとして「桑原鬼柳のメダカ」がクローズアップされることが期待されます。

桑原のメダカの遺伝子調査が行われました。

工業団地化計画の 2 期対象となっている桑原地区（一部鬼柳も含む）の今後の農業の在り方、貴重な自然遺産をどう守り、どう開発と折り合いを探るべきなのかを検討する市のプロジェクトチーム（農政課、産業政策課、環境保護課等の横断チーム）による地権者への説明会が 4 月に行われました。このプロジェクトチームが主体となり、対象地域の「生物相調査」が行われ、あらためて豊かな生態系（植物も含む）であることが判明しました。同時に、「メダカ」の遺伝子調査も実施され、「酒匂川水系のメダカ」の遺伝子に混濁はなく、在来の「種」が保存されていることが証明されました。（調査・かながわ淡水魚復元研究会 遺伝子 DNA 調査・九州大学 勝村啓史教授）遺伝子調査は 28 年前の新潟大学による調査以来、となっているはずです。



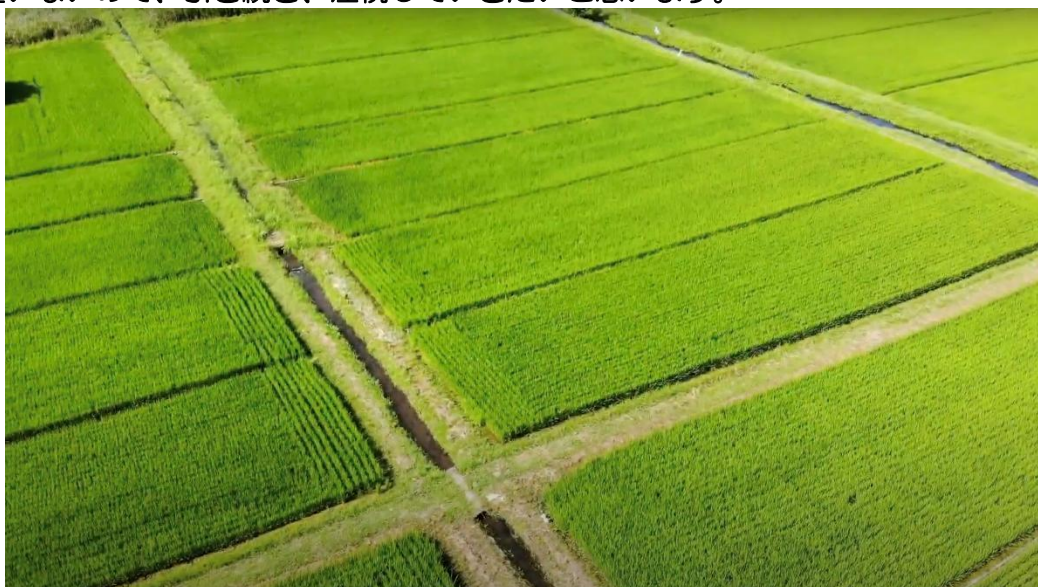
アンケートによれば、地権者の 9 割が田んぼを処分したいと考えているということですが、しかし、その 6 割は「この自然景観は残して欲しい」ということも判明しています。これはどういうことか、工業団地化のために「田んぼを処分してもよい」と即断

するわけにはいきません。ここは地権者の皆さんの思いを深く探り、小田原市には賢明な判断が求められますね。

プロジェクトチームには、この桑原地区が、現在、メダカや田んぼを中心として、企業や学校、市民団体などが集まり、教育や福祉、いうまでもなく稲作への応援、環境保全を謳う「めだか米」のブランド化などの地域経済への貢献、そして、「自然共生サイト」への認定取得なども含め、環境保全の象徴的存在との認識はあり、地権者への報告会でもそのことは伝えられ、「水田環境は保全され、農業が継続される」場合についての「桑原の姿」を描き出す調査・検討を進めているとの報告がありました。



今回の「ネイチャーポジティブ宣言」も、ひとつ追い風となるニュースであることは間違いないので、引き続き、注視していきたいと思います。



特定外来種オオカワジシャの駆除を行いました。

5月2日、五間堰と二間堰を繋ぐ連絡水路に繁茂していたオオカワジシャの刈り取りを行いました。紫色の可憐な花をつける植物ですが、在来種のカワジシャよりも繁殖力が強いのが特長です。昨年は横堰での駆除を行っています。

オオフサモと同じように、大量のゴミ袋に回収し、市への処分依頼をしています。



この日は、矢後さん、大橋さん、由季さん、川合さん、村田の5人で作業。（連休中、翌日はパトロールの予定もあり、皆さんへの呼びかけを控えて少人数としました）皆さん、お疲れさまでした。

恒例の田植えです。うるち米と酒米、2日間で行いました。

5月31日、うるち米「虹のきらめき」、暑さに強い品種ですが、16人ほどの方に参加いただきお昼過ぎに終了することが出来ました。熱中症への気配りも必要のないおだやかな気候に恵まれた半日となりました。6月7日には、純米吟醸酒「左岸」となる「吟のさと」の田植えを、不耕起田んぼで実施、田起こしをしていない田んぼでの自然農法による稲作への3年目の挑戦でした。細長い田んぼなので、ヨコに3人、5人ほどでゆっくりと。この日も15人ほどでしたので交代交代でお昼過ぎに終了。

小雨模様ではありましたが完了することが出来ました。

左が5月31日のうるち米、右が6月7日の酒米田植えのスナップです。



絵本作家 夏目義一さんから絵本のプレゼントを頂きました。

飯泉にご自宅のある絵本作家の夏目さん、毎回、田植えや稲刈りを見学に来られているのですが、6月7日の酒米の田植えの日にご自身の著作をたくさん抱えてお見えになりました。福音館書店から刊行されている2冊の絵本、皆さんに配ってくださいとの申し出。参加の皆さんにお渡し出来ました。ありがとうございました。「ときがとぶそら」は中国での取材から描かれたものですが、その子孫が新潟の佐渡で生息し「とき米」として「コウノトリ米」や「めだか米」と並んで生き物ブランドとなっているわけですね。福音館では、この桑原のメダカと田んぼを材料にした絵本の制作が決定、夏目さんが張り切っておられました。本には、制作協力として「めだかサポーターの会」の記載もと約束していただきました。2年間の制作期間を経ての刊行となるということです。



ザリガニ釣り大会が6月から始まっています。

6月21日、この夏初めてのザリガニ釣りを行いました。雨の予報もあり、曇り空でのスタートとなりましたが「インスタ」で見てというご家族が3組10人ほどが参加。残念ながら釣果はゼロ。それでも繁茂していたオオカナダモを引き揚げたときに隠れていたザリガニ2匹を捕まえ、子どもたちは大はしゃぎでした。昨年も6月は釣果ゼロだったこと、また前日までの雨などで水路も濁りなどなど、今日は難しいかなと予測はできていたので次回の7月、8月に期待です。今年からインスタグラムでも参加を呼びかけることにしています。(右の写真は7月5日の呼びかけチラシです。)

会員の皆さんもご友人やご家族お揃いでお出かけください。お待ちしております。

ザリガニ釣り 参加者募集!!



7月5日(日)9時半スタート 12時終了予定
(集合場所) 最寄り駅(水田ビオトープ)にお集まりください。
お車の方は、セブンイレブン(最寄り駅)の駐車場をご利用ください。

野生メダカの天敵アメリカザリガニを駆除します。在来の生態系を守るアメリカザリガニは、環境省から特定外来生物に指定されています。

(特徴) タガロ・短足・短尾・短中絶子(卵)のため繁殖力が高い。
卵の黄・ハダカ・エサは主にメダカサポーターの餌が特長します。

●どこにでも繁殖できます。繁殖の抑制も困難です。
※梅雨のシーズンは中止となります。中止の場合は、当日の午後3時30分に「めだかサポーターの会」インスタグラムでお知らせしますのでご確認ください。
<https://www.instagram.com/mekadaka.supporters/>
1199403024wct_jp02



「おだわら めだかの郷」が熊本で紹介されます。

この活動報告をまとめている時に飛び込んできたニュースです。熊本で開催される「グローバル・ネイチャーポジティブ・サミット2026」の展示ブースで、自然共生サイト「おだわら めだかの郷」がパネル紹介されることになりました。(7月14日・15日開催)環境省からではなく、農水省からの確認依頼でしたので、プロジェクトに農林水産業が関わっていること、生産物に付加価値があり継続性があることなどから「めだか米」を生み出している取組として指名がありました。

予告

●夏休みボランティア受け入れ日



8月9日 アメリカザリガニ釣り大会に受け入れを行います。小学生から一般まで誰でも参加できます。小田原市は7月1日より、参加市民団体を公開し、募集を始めました。当会では昨年は参加20名ほどの半数が高校生が占め、それまでの小学生中心の模様とは少し違いました。今年はどんな様相になるか楽しみにしています。小学校では「こどもタウンニュース」がひとりひとりに配布され、そこに夏休みボランティア情報が(参加市民団体の募集内容)が掲載されます。写真は昨年のもので、やはり8月ともなると大量捕獲になります。

●夏休み子ども向けSDGsイベント

「みんなでSDGsを学ぼう!」に参加します。

8月18日(火) 10時30分~12時 観光交流センター(三の丸ホール隣り)

授業タイトル メダカは、小田原の宝ものなんだよ

授業内容 メダカや田んぼの生き物の水槽展示での観察
メダカのスケッチと参加者全員のスケッチを一枚に展示
プロジェクターによる田んぼの生き物解説など

講師 高橋由季さん 大橋美恵子さん 府川紗佑里さん

